

# 奈良



# 探究

1300年の歴史を感じながら、自分たちの未来を描いていこう



# 今と昔がミックスした街・ 奈良市へようこそ!

みなさんは奈良市にどんなイメージを持っていますか？ 平城京へいじょうきょうがあった場所、1300年前の日本の中心地ちゅうしんち、東大寺や大仏さま……。きっと教科書でいろいろ習ったことがあると思います。



でも、奈良市の魅力は教科書だけではわかりません！  
実際に訪れて、歴史あるお寺や神社、自然豊かな奈良公園ならこうえん、かわいい鹿とのふれあい、どこかなつかしくて趣ある街並みをぜひ体感してみてください！

そうすればきっと、奈良市が1300年の歴史を大切にしながらも、時代に合わせて新しいものを取り入れ、変化をしてきた街であることがわかるでしょう。

じつは1300年前の平城京の時代、奈良は外国との交流が盛んな国際都市でした。大陸からさまざまな文化が到来した最先端の都市であり、京都に都が移ったあとも、一大宗教都市として発展しました。

そうして現在は、古くからのお寺や神社、文化や技術などが保存・継承された国宝の宝庫でありながら、町家を利用したおしゃれなカフェや雑貨店も楽しめる“今と昔がミックスした街”として進化しています。

人々の暮らしや匠たくみの技、地形の特徴、そして歴史上の重要人物など、さまざまな視点で、この奈良旅行を思い切り楽しんでください。そうして楽しむ中で見つけた「奈良市らしさ」を、ぜひあなたが住んでいる地域に持ち帰って、あなた自身の未来を考えるための参考にしてください。



知れおきとびっくり!  
大仏さまの作り方!

「早起きは三文の徳」の  
由来は僕たちにある!?

奈良時代の  
最先端ファッションって  
知ってる?



## ●奈良市の概要

奈良市は奈良県の最北部に位置する県庁所在地であり、県内の市町村の中で最も人口の多い都市です。奈良時代に平城京が置かれ、仏教をはじめとした天平文化が花開いた土地として知られています。京都(平安京)の南に位置することから南都とも呼ばれました。

市街地は盆地に位置するので夏と冬あるいは1日の中での気温差が大きいのが特徴です。冬季の気温は同じく盆地に位置する京都よりも低くなることが多いです。

●人口 **351,418** 人

●世帯数 **166,772** 世帯

●面積 **276.94** km<sup>2</sup>

(令和5年1月1日住民基本台帳による)



しかまるくん  
©奈良市観光協会

## [奈良市観光協会のマスコットキャラクター・しかまるくん]

「しかまるくん」は奈良公園のアイドルとして多くの方に親しまれている鹿をモチーフにした奈良市観光協会マスコットキャラクターです。奈良市を訪れる人々に古都奈良の魅力を伝え、国内外において、魅力溢れる奈良をPRします。

旅行前にチェック!

### 奈良市を10倍楽しむための動画



しかまるくんと一緒に奈良について予備知識を身につけましょう。お寺の由来やクイズなど、旅行前に見るだけで奈良市への旅行が10倍楽しくなるはず! 左記のQRコードからアクセスしてみてください。

●<https://bit.ly/3JhKJr5>



## C O N T E N T S

今と昔がミックスした街・奈良市へようこそ!.....	2
“2つの探究テーマ”で奈良市を見てみよう!.....	4
●なら探究テーマ①	
・「建造物」.....	6
●なら探究テーマ②	
・「人」.....	12
●事前学習	
・旅行前にコンセプトとキーワードを決めよう.....	18

### ●街探索

・昔と今の地図を片手に  
ならまちを探索しよう!.....

20

### ●旅行のまとめワーク

・奈良市での学びをふりかえろう.....

26

・自分ごととして考えてみよう.....

28

### ●発展

・奈良市での学びを「5つのP」で整理しよう.....

30

# 2つの探究テーマで奈良市

約1300年前につくられた平城京は、当時、国際都市として栄えた唐(中国)の長安を見本としてつくられた華やかな都でした。

平城京の時代は、国の平和を願って寺院や大仏が建てられ、仏教文化が花開きました。遣唐使や大陸から渡ってきた外国人によって先進的な文化も伝わりました。東大寺の正倉院には唐やインド、ペルシア(イラン)からたどり着いた宝物が納められており、奈良がローマから続く「シルクロードの東の終着点」であったことがわかります。

都が平安京(京都)に移った後は、残された寺院のまわりに人々が集まり、門前町として発達していきます。

しかし、戦国時代の混乱で、寺院の力が衰退。その後、江戸幕府のもとで商工業の街として発展していきます。江戸時代には兵火で焼失していた東大寺の大仏が復興されたことで、観光も盛んになりました。

現在の奈良市中心部～南部は平城京のあった場所と重なっていて、はるか1300

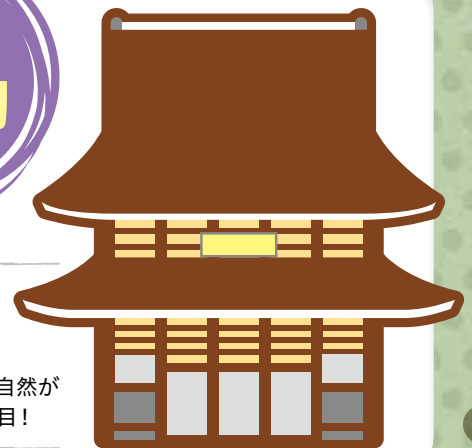
年前から続く流れが至るところで感じられます。

たとえば、大極殿や朱雀門が復元された平城宮跡、東大寺や興福寺などの建造物では、当時の建築様式や文化に触れられます。

それらを建立した歴史上の人物、仏教を広めるために大陸から渡ってきた僧侶たち、奈良を愛した芸術家など、現在の奈良市は長い歴史の中のため

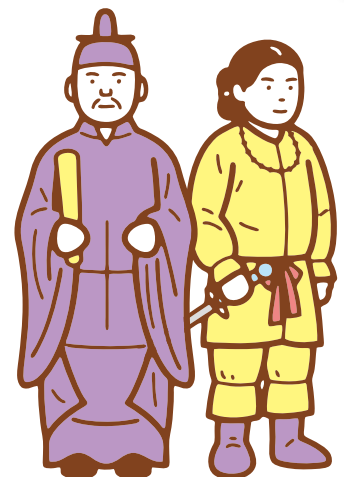
## 2つのなら探究テーマ

### テーマ① 建造物



歴史的価値の高いお寺や神社、江戸時代の雰囲気が残る街並み、豊かな自然が残る山や街道などに注目!

### テーマ② 人



平城京の時代に活躍した天皇や貴族、遣唐使や唐から渡ってきた僧侶、奈良ゆかりの芸術家などに注目!



奈良漬



# を見てみよう！

くさんの人々の思いが集まって形成されています。

この、人と建造物という2つをテーマに奈良市を探究してみましょう。自分で決めたテーマについて、歴史、文化、景観という視点でひも解いていくことは、奈良市のこれまでの1300年を知り、これからの1300年について考えるヒントを見つけることにつながるでしょう。



## ならをひも解く3つの切り口

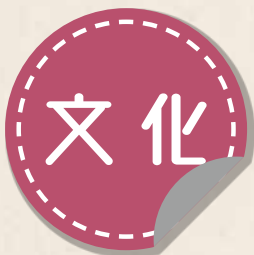


建造物

どのような経緯で建てられたのかを調べましょう。その後の歴史の中で役割がどう変遷していったのか、また現代の姿にはどんな意味があるのか。さらに今後、その建造物が果たすべき役割について考えてみるのもよいでしょう。

人

取り上げた人が、当時どのような思いで奈良に関わっていたのか考えてみましょう。その思いがどのような行動につながったのか、また現代にどんな影響を残しているかも重要なポイントです。



建造物

建造物に残る大陸から渡ってきた文化について調べてみましょう。さらに、歴史的な建造物が街並みや人々の営みに与えている影響について想像してみるのもよいでしょう。

人

その人物が現代の奈良の文化にどう関わってきたかを考えてみましょう。またこれまでにつくられてきた文化が、どのような人を奈良に引き寄せてきたのかを想像してみるのもおもしろいでしょう。今後の奈良に必要な人について考えてみるのもおすすめです。



建造物

建造物と自然が調和した奈良の景観は、歴史の中でどう形成されてきたのか調べてみましょう。また、その景観をどう引き継いできたのか、また今後どうやって残していくのかについて考えてみるのもよいでしょう。

人

歴史的な街並みを大切にす都市計画、自然環境を未来に残す活動など、奈良の景観に対する人々の思いに焦点をあててみましょう。景観と人との関わり方を調べたり、自然と調和することをどう暮らしに生かしてきたかなどについて考えるのもよいでしょう。

# 1300年前の日本にタイムスリップ! 古都を感じる奈良市の建造物

奈良市には東大寺や春日大社、平城宮跡など、歴史的価値の高い建造物がたくさんあります。ほかにも江戸時代の雰囲気を残した街並みや、古くからの自然が残る山など、魅力あるスポットや自然が盛りだくさんです。

ある建造物の歴史をたどれば、建てられた当時の社会の様子や込められた願いがわかるでしょう。また、その建造物に残る文化や技術を調べると、それが現代でも活用されていることに気づくかもしれません。万葉集にも歌われた建造物と自然が一体化した美しい奈良の景観が、どう保存・継承されてきたかを調べ、未来の社会に生かす方法を考えるのも良いですね。

どうぞ、古都・奈良でタイムスリップを楽しんでください。きっと、教科書だけではわからなかった、たくさんの驚きや感動を発見できるはずです。

## 奈良時代の大学!? 存在もサイズもBIGな「東大寺」

### 東大寺 ●とうだいじ

「奈良の大仏さま」で知られる東大寺は、728年に聖武天皇が造った山房、のちの金鐘山寺を前身寺院とします。

奈良時代は災害や政治的争い、伝染病など苦難の時代で、聖武天皇は仏教の力によって災いをなくそうと、741年に国ごとに国分寺と国分尼寺を造るように命じました。その際に金鐘山寺が大和国分寺となりました。また、743年には「盧舎那大仏造立の詔」が出され、752年に開眼されました。世界最大の金銅仏とされ、大仏殿も世界最大級の木造建造物です。大仏は地震や戦災などで何度も困難にあいますが、そのたびに多くの人々の協力で修復がなされました。現在は胸から脚や台座にかけて奈良時代のものが残っており、頭部は江戸時代に修復されたものです。開眼の頃には“平城京の東にある大寺(国立のお寺)”という意味で「東大寺」と呼ばれるようになりました。

当時のお寺は、祈りの場であると共に研究の場でもあり、東大寺は南都六宗と言われる6つの宗派すべてを学べる、今でいえば大学のような場所で、僧侶たちは平和や幸福を祈りながら真剣に勉強していたんですね。

#### ならトピック

入浴の習慣は仏教と共にもたらされたと言われています。もともとお坊さんが身を清めるためのものだったようです。室町時代の遺構を残すのが「東大寺・大湯屋」。仏教がもたらした生活習慣は他にもあるので調べてみましょう。

歴史

文化



聖武天皇 P12、光明皇后、鑑真 P13、

行基 P15

●東大寺HP:<https://www.todaiji.or.jp/>



奈良に鹿がたくさんいるワケは春日大社にあり！

## 春日大社 ●かすがたいしゃ

文化

景観

春日大社は、全国にある春日神社の総本社です。奈良時代の初めに、御蓋山に茨城県鹿島神宮から迎えた武甕槌命という神様を祀ったことが始まりとされています。武甕槌命は白鹿に乗ってきたという言い伝えから鹿は神の使いとして大切にされてきました。だから、今も奈良市には鹿がいっぱいいるんですね！

768年に称徳天皇が現在の場所に社殿を造営。やがて20年ごとに社殿を建て替える式年造替が行われるようになります。

春日大社は奈良～平安時代にかけて勢力のあった藤原氏と共に栄えました。平安時代に広まった“仏も神も元は一つ”と考える神仏習合に合わせて、藤原氏の氏寺である興福寺との関係が深まり、ほぼ一体化していた時期もあります。明治時代の神仏分離で、その関係性が変化しますが、現在でも毎年1月2日に興福寺の僧侶が春日大社に参拝してお経を読むなどの行事が見られます。

●春日大社HP:<https://www.kasugataisha.or.jp/>



### ならトピック

境内には平安時代から今までに奉納された約3,000基の燈籠(とうろう)があります。昔は毎晩、火が灯されていて、奈良で一番明るいイルミネーションスポットだったんです。



藤原氏 P14、称徳天皇

万葉集の歌人が見た風景と同じ!? 美しい奈良公園

## 興福寺・奈良公園 ●こうふくじ・ならこうえん

文化

景観

奈良公園は東大寺や春日大社、奈良国立博物館など、歴史的な文化遺産が隣接する広大な歴史公園です。美しい建造物と豊かな緑、のんびりと鹿が遊ぶ風景は、古くから人々に愛されてきました。奈良時代の万葉集には春日山や春日野などが歌われ、室町時代や江戸時代のさまざまな文献にも奈良の優れた風景を表す「南都八景」という言葉が見られます。

奈良公園の入り口にある興福寺は、飛鳥にあった藤原氏の繁栄を願って建立された氏寺を、平城京遷都後に現在の位置に移したのが始まりです。藤原氏の氏寺ながら、主要な堂塔の建立は天皇や皇后が発願していて、当時の藤原氏と朝廷の関係の深さがわかります。鎌倉～室町時代には、興福寺が大和守護職の実権を握り、大和国を支配していました。

じつは興福寺の五重塔は現在の奈良県で一番高い建物。奈良は1300年前からランドマークが変わらない驚きの街なんです！

●興福寺HP:<https://www.kohfukuji.com/>



### ならトピック

鎌倉～室町時代、興福寺は裁判所の機能も兼ね備えていました。当時は鹿を傷つけたり殺したりすることは禁じられており、その際の裁判や刑の執行も興福寺がとり行っていました。



藤原不比等 P14、運慶・快慶 P14、足利義昭 P16

どうして東向き？ 地名に残る古都の風景

## ひがしむき商店街

●ひがしむきしょうてんがい



近鉄奈良駅から南に伸びる「ひがしむき商店街」。名前の由来はズバリ“東側こうふくじに興福寺があるから”です。平城京へいじょうきやうの時代、興福寺に背を向けられないように民家はすべて西側うじでらに並び、東側の興福寺を向いて建てられました。藤原氏の氏寺として存在感の大きかった興福寺ですが、戦国時代以降に勢いが衰え、東側にも民家や商店が建つようになりました。



藤原氏 P14

どうだいし とうだいし とうだいし とうだいし  
東大寺と法華寺はペア？ 総国分尼寺として建立

## 法華寺

●ほっけじ



聖武天皇しょうむが建立した総国分寺そうこくぶんじの東大寺に対して尼寺である「法華寺」はその后きさきである光明皇后こうみょうこうごうが総国分尼寺として建立しました。奈良時代には栄えた法華寺ですが、やがて衰退し、その後、兵火や地震で建物が焼失、崩壊しました。この復興を発願したのが豊臣秀吉とよとみひでよしの側室・淀君よどぎみで、現在の建物は桃山時代に再興されたものです。

●法華寺HP:<https://hokkejimonzeki.or.jp/>



光明皇后、聖武天皇 P12、藤原不比等 P14

6月の子鹿公開イベントはカワイイの大渋滞！

## 鹿苑

●ろくえん



「鹿苑」は国の天然記念物である「奈良のシカ」の保護施設で、鹿と人間が共存するための活動をしています。春から夏にかけては妊娠した鹿や子鹿の保護、秋には江戸時代から続く、人間や鹿同士の安全対策のための「鹿の角きり」を行っています。飛火野で行われるナチュラルホルンの音に鹿が集まる「鹿寄せ」も奈良市の風物詩として人気です。

●鹿苑HP:<https://naradeer.com/>  
●鹿寄せ:<https://youtu.be/q6emb48Zhn4>

気品ある明治の建物と美しい自然のハーモニー

## 奈良女子大学記念館

●ならじょしだいがくきねんかん



1908年に奈良女子高等師範学校本館として完成した建物の、現在は国の重要文化財となっています。明治時代の雰囲気を残すモダンな佇まいが印象的です。また、江戸時代には現在の奈良女子大学の場所に奈良奉行所がありました。当時、奈良は江戸幕府の直轄領で、奈良奉行所が行政や訴訟、大和国の寺社の管理などを担っていました。

●奈良女子大学記念館HP:<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/faculty/kinenkan/>





じつは**国際都市だった平城京** 復原された建造物は必見！

## 平城宮跡 ●へいじょうきゅうせき

平城宮跡は奈良時代の都・平城京の中心であった皇居と官庁街の跡地です。710年に元明天皇が藤原京から平城京に遷都。帰国した遣唐使の情報をもとに、唐の長安をモデルに造られた平城京は、天皇の住む内裏、政治や儀式を行う大極殿、役人が働く役所がある平城宮を中心に、貴族の住まいや寺院などが並ぶ華やかな街・都市でした。

当時は大陸との交流が盛んで、唐、インドやペルシア(イラン)などの文化に影響を受け、天平文化が開花します。じつは平城京はペルシア人が役人として働いていた国際的な都市だったという話も！

京都に都が移ったあと平城宮は廃れてしまい、平城宮跡には当時の建物が現存しているものはありません。しかし、奈良文化財研究所によって1960年代から発掘調査が続けられており、朱雀門や大極殿、大極門など、当時の技術や道具を再現して復原。1300年前の建物を再現したなんてロマンがありますよね。

●平城宮跡 HP:<https://www.heijo-park.jp/>  
●奈良文化財研究所 HP(かりうち): <https://www.nabunken.go.jp/research/kariuchi.html>

### ●ならトピック

奈良時代に役人の中で大ブームになったボードゲーム「かりうち」が、発掘調査を元に復元されました。あまりの人気ぶりからか、当時はなんと禁止令まで出されたそう。1300年も前から人はゲームのトリコなんですね。

歴史

文化



元明天皇、藤原不比等 P14

1300年の歴史の流れをギュギュッと体感できる「ならまち」

## ならまち ●ならまち

ならまちは世界遺産の元興寺の旧境内を中心とした地域で、入り組んだ路地に古い町家を利用したカフェや宿泊施設などが点在する、人気の観光地です。元興寺は718年に前身である法興寺(飛鳥寺)が平城京に移され、寺名を改めたのが始まりです。

京都に都が移ったあとも、一帯は寺社の街として発展しました。やがて奈良筆や奈良墨、奈良晒など、さまざまな産業が発達。江戸時代には日本有数の商工業の街として栄えると同時に、東大寺の大仏復興で観光の街としても人気を集めます。

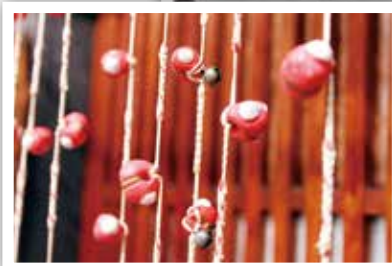
ならまちのおもしろさは、長い歴史の中で時代ごとに役割を変化させながら現代まで続いてきたところ。平城京から引き継がれた道もあれば、奈良の伝統工芸が体験できるスポット、江戸時代の商家もあり、1300年の歴史を一度に体感できるお得な街なんです！

### ●ならトピック

ならまちの家や店の軒下に吊り下げられている紅白の飾りは「身代わり申(さる)」といって災いを代わりに受けてくれる魔よけ。江戸時代に広まった庚申(こうしん)信仰の風習で、ならまちの街並みの特徴になっています。

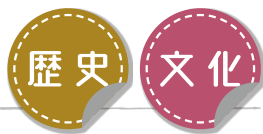
歴史

文化

くろかい(元興寺で修行)  
空海(元興寺で修行)

## 六重と見せかけて三重の塔！ リズミカルな屋根が特徴

# 薬師寺 ●やくしじ



薬師寺は680年に天武天皇が皇后(後の持統天皇)の病気回復を願って建てた寺で、718年に藤原京から平城京に移されました。

中央に本尊をまつる金堂、その東西に2つの塔が配置されており、華やかで堂々とした「龍宮造り」が特徴です。東西の塔は六重に見えますが、各層に裳階と呼ばれる小さな屋根をつけた造りで、じつは三重の塔なんです！

薬師寺は、長い歴史の中で何度も地震や火災にあり、特に1528年の兵火では多くの建物が焼失しています。1960年代からお写経を通じて復興資金を集める活動が始まり、1976年の金堂を最初に、西塔、大講堂など次々と再建。唯一、創建当時の姿を残す東塔も12年かけて解体修理が行われ、2021年に完了しました。大小の屋根の重なりがリズムカルな姿から、東塔は「凍れる音楽」とも称されています。

●薬師寺HP:<https://yakushiji.or.jp/>



天武天皇、

西岡常一 P15

**ならトピック**  
本尊である薬師如来(やくしによらい)の座る台座には、中国の霊獣である四神や、ギリシャやペルシア(イラン)由来の文様が描かれています。当時、大陸からの影響が強かったことが伝わってきます。

## 1000年以上前の姿を残す世界遺産の森を守る

# 春日山原始林

●かすがやまげんしりん



春日山原始林は、平安時代に春日大社の神域として狩猟伐採が禁止されてから、原生の姿を残す森として守られてきました。しかし、外来種の侵食、鹿による採食などで、植生の維持が危うくなっています。そのため外来種の伐採、植生保護柵の設置など、さまざまな活動で春日山を未来につなぐ活動が続けられています。



黒澤明 P16

## 徳川將軍家に剣術を指南 剣豪たちの里へGO!

# 柳生街道

●やぎゅうかいどう



柳生街道は、奈良市東部の山間にある柳生の里に向かう街道。江戸時代に徳川家の剣術の先生を務めた柳生新陰流の里で、現在ではハイキングルートとして整備されています。柳生の里の天乃石立神社の奥には、真二つに割れた一刀石があり、人気アニメに似た巨石が登場することから聖地として人気を集めています。



柳生宗厳、柳生宗矩、柳生十兵衛



ほかにもたくさん!

## なら探究にぴったりの建造物

奈良市には、

まだまだ魅力的な建造物やスポットがいっぱい!

気になるものを見つけたら、どんどん探究してみましょう!

建造物	概要	関連人物	建てられた時代
<b>太安万侶墓</b> ●おのやすまろのはか	古事記の編纂(へんさん)者・太安万侶の墓。1979年に茶畑の開墾中に発見された。	太安万侶	奈良時代
<b>佐保山南陵</b> ●さほやまのみなみのみささぎ	聖武天皇の陵墓。隣接する佐保山東陵は光明皇后の御陵とされている。	聖武天皇、光明皇后	奈良時代
<b>新薬師寺</b> ●しんやくしじ	747年に聖武天皇の病氣回復を願って光明皇后によって創建された寺。	聖武天皇、光明皇后	奈良時代
<b>唐招提寺</b> ●とうしょうだいじ	鑑真が戒律(かいりつ)を学ぶ人のための修行の場として建立。晩年の5年間をここで過ごした。	鑑真	奈良時代
<b>誕生寺</b> ●たんじょうじ	文楽や謡曲などの題材として扱われる中将姫誕生の地とされている寺。	中将姫	奈良時代
<b>徳融寺</b> ●とくゆうじ	中将姫の霊跡で、前身は元興寺の子院。中将姫が継母(ままは)に折檻(せっかん)されたとされる「虚空塚(こくうづか)」が残っている。	中将姫	奈良時代
<b>菅原天満宮</b> ●すがわらてんまんぐう	学問の神様・菅原道真公とその祖先をまつる日本最古の天満宮。菅原道真公生誕の地と言われている。	菅原道真	平安時代
<b>大安寺</b> ●だいあんじ	聖徳太子が大和郡山市に建てた熊凝精舎(くまごりしょうじゃ)が始まりと言われていて、奈良時代に現在の地に移り大安寺となった。当時、朝廷の保護を受けた格の高い7つの寺「南都七大寺」の一つ。	空海(弘法大師)	奈良時代
<b>不退寺</b> ●ふたいじ	平安時代の歌人で伊勢物語の主人公と言われている在原業平ゆかりの寺。	在原業平	奈良時代
<b>円成寺</b> ●えんじょうじ	柳生街道にある寺。仏像作りの名手・運慶の青年期の作品とされる国宝の大日如来像(だいにちにちよらいぞう)がある。美しい紅葉でも有名。	運慶	奈良時代
<b>称名寺</b> ●しょうみょうじ	もともとは興福寺の別院として建立される。茶道の始祖とうたわれ、同寺の僧でもあった村田珠光ゆかりの地。	村田珠光	室町時代
<b>多聞城跡</b> ●たもんじょうあと	松永久秀が軍事拠点として築城した多聞城の跡地。久秀が東大寺大仏殿の戦いで勝利し、大和国を支配していた際は政治的拠点ともなった。	松永久秀	戦国時代
<b>芳徳寺</b> ●ほうとくじ	柳生家の菩提寺(ぼだいじ)で、本尊の左右に柳生宗矩像や沢庵和尚像が安置されている。	柳生宗厳	江戸時代
<b>五劫院</b> ●ごこういん	東大寺の末寺。江戸時代に東大寺の大仏・大仏殿の再建に一生を捧げた公慶の墓がある。	公慶	江戸時代
<b>奈良皇室博物館</b> ●ならていしつはくぶつかん	奈良国立博物館の前身で、宮内省管轄の博物館。皇室博物館は東京、京都、奈良におかれ、森鷗外は1917年に皇室博物館総長に就任した。	森 鷗外	明治時代
<b>鷗外の門</b> ●おうがいのもん	皇室博物館総長時代の森鷗外が滞在した博物館の宿舎の門。毎年秋に正倉院の開封のため奈良を訪問していた。	森 鷗外	大正時代? (詳細不明)

# あなたの“推し”を見つけよう！ 奈良に影響をおよぼした人々

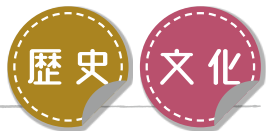
平城京<sup>へいじょうきょう</sup>で政治の中心人物として活躍した天皇や貴族、日本の未来のために海を渡った遣唐使、奈良の美しさに魅了された芸術家……。現在の奈良市は、1300年前から続くたくさんの人々の思いで形作られています。

教科書にも出てくる奈良時代の天皇について掘り下げると、現代の人々と変わらない平和を願う姿が見えてくるでしょう。また、遣唐使や大陸から渡ってきた僧侶を調べると、彼らが命懸けで持ち込んだ文化が、日本のさまざまなおところに残っていることがわかります。さらに、奈良に暮らした文豪に注目すれば、奈良の美しい景観が、彼らの作品に及ぼした影響を感じられます。

奈良を形作った人々を探究すれば、これまでとは違う奈良の魅力に気づくかも知れません。ぜひ、個性豊かな人々の中からあなたの“推し”を見つけてください！

## 当時の最先端の仏教の精神を実践した「聖武天皇」

### 聖武天皇 (生没年701～756) ●しょうむてんのう



724年に即位した聖武天皇は、大仏造立<sup>おほぶつぞうたて</sup>や国分寺・国分尼寺<sup>くくぶんにじ</sup>の建立を命じたり、墾田永年私財法<sup>くんでんえいねんしさいほう</sup>を公布するなど、奈良時代を知るために欠かせない人物で、都の場所を決めるのに迷走(!?)したことで有名です。741年に平城京から恭仁京(京都)に遷都し、その後は難波京(大阪)、紫香楽宮(滋賀)と、次々に都を移し、745年に再び平城京に都を戻します。そのため、もともと政治的争いや天然痘の流行などで混乱していた世の中が、さらに混迷を深めたとされています。

そこだけに注目すると、勝手気ままな専制君主のように思えます。しかし、「盧舎那大仏造立の詔<sup>みことり</sup>」を調べると、少し印象が変わるはずです。「一枝の草、一把の土<sup>ひとえだ ひとにぎり</sup>」を持ち寄って「すべてのものの幸福のため、みんなの力と思いを集めて大仏を共に造りたい。賛同する人は協力してほしい」と呼びかけており、文化的にも最先端であった仏教思想を意欲的に学び、すべての命の幸せを願う聖武天皇の姿が浮かんできます。

天皇の権力を使うのではなく、民衆に無理強いするのもなく大仏を造る姿勢は、聖武天皇のひたむきな思いを表しているといえるかもしれません。

**ならトピック**  
東西交流が盛んだった奈良時代。聖武天皇は、なんとベツドを使っていたとか。「御床(ごしょう)」とって、正倉院に保存されています。トレンドに明かっていたのかもしれませんがね。



写真提供：東大寺／聖武天皇御影(小泉淳作・画)



東大寺 P6、正倉院、平城宮跡 P9



## 日本に“本物の僧侶”を増やすためにやってきた不屈の人

### 鑑真 (生没年688～763) ●がんじん

歴史

文化

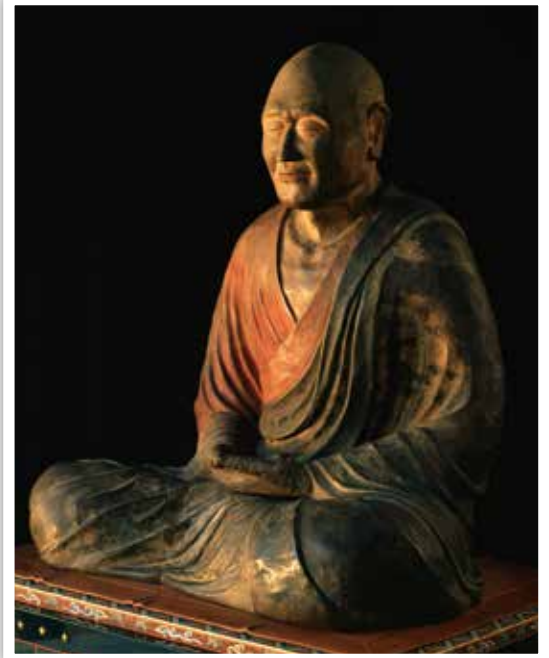
鑑真(鑑真)は唐(中国)出身の僧侶で、754年に65歳を越えて日本にきました。当時の日本は僧侶になるための戒律(かいりつ)を授ける高僧(こうそう)がおらず、ニセモノ僧侶が増えています。そのため遣唐使(けんたうし)として唐に渡った日本人僧侶・栄叡(えいゑい)と普照(ふしょう)は、「戒律を授けられる高僧を10人連れてくる」という国からのミッションを果たすため鑑真のもとを訪れます。

二人の説得(せつとく)に応じた鑑真ですが、皇帝(てんてい)から出国(こくこく)の許(ゆる)しがあらず、密航(ひっかう)を計画(けいかく)します。しかし、密告(ひつこく)されたり、船(ふね)が嵐(あらし)にあたりと何度も失敗(しっぱい)。12年(じふにねん)をかけて6度(ろくど)目の航海(かいかい)でやっと日本(にっぽん)にたどり着(つ)いたときには、目(め)も見えなくなっていました。

そこまでして鑑真(かんじん)が日本(にっぽん)に渡(わた)ったのは、正しい仏教(ぶつこう)の教え(けがし)を一人(ひとり)でも多く(おほく)に広(ひろ)めたいという思い(おもひ)からでした。そうして亡(な)くなるまでの約(およ)10年間(ねんかん)、多く(おほく)の人に戒律(かいりつ)を授(たま)け、日本(にっぽん)の仏教(ぶつこう)の発展(はつぜん)に大(おほ)きく貢(こう)献(けん)しました。

#### ならトピック

5回目の渡航(わたく)では嵐(あらし)で漂流(ひょうりゅう)し、海南島(かいなんとう)(中国)に辿(たど)り着(つ)きました。その後(そののち)、1年(いちねん)ほど滞(とど)り着(つ)いたようですが、そこでも鑑真(かんじん)は精力的(せいりきりてき)に仏教(ぶつこう)の教え(けがし)を広(ひろ)めたそうです。どんな場所(ばしょ)や状況(じょうきょう)でも布教(ふきょう)に努(こ)める不屈(ふくせき)の精神(せいしん)には驚(おどろ)きますね。



©飛鳥園



東大寺 P6、唐招提寺

## 奈良にうまいものはないけれど、名画のように美しい!

### 志賀直哉 (生没年1883～1971) ●しがなおや

文化

景観

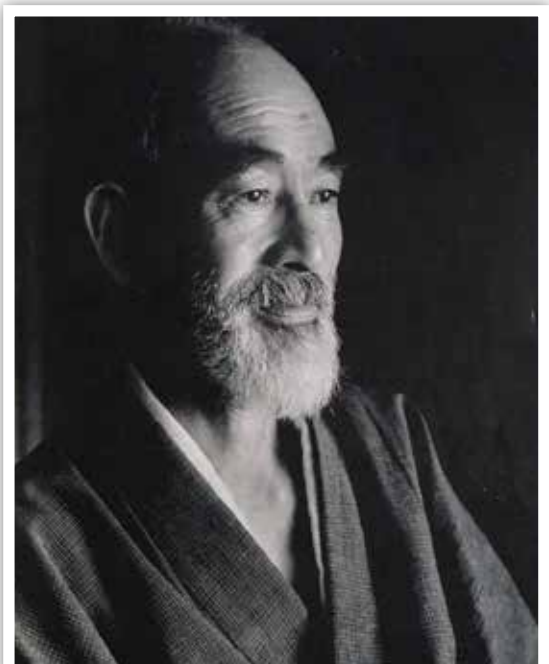
小説(せうせつ)の神様(かみさま)と呼ばれた作家(さか)・志賀直哉(しがなおや)は1925年に奈良市幸町(ならしきょうまち)に居(い)を構(かま)え、その後(そののち)、高畑町(たかはたけちょう)に自ら設計(せきけい)した邸宅(ていせき)を建築(けんちく)します。奈良公園(ならこうえん)に隣接(りんせつ)し、春日山(かすがやま)や若草山(わかくさやま)などを望(のぞ)める邸宅(ていせき)には、作家(さか)仲間(なかま)だけではなく、写真家(しやうしんか)や音楽家(おんがくか)、彫刻家(てうこくか)といったさまざまな芸術家(げいゆんか)が集(あ)まり「高畑サロン」と呼(よ)ばれました。

そんな奈良(なら)での生活(せいかつ)を綴(つづ)った随筆(ずいひつ)『奈良(なら)』で、有名(ゆうめい)なのが「奈良(なら)にうまいものなし」という一説(いっせつ)です。正(ただ)しくは「食(た)ひものうまいものない所(ところ)だ。」と書(か)かれているのですが、じつはその後(のち)に、“お菓子(かし)や豆腐(とうふ)など人(ひと)に贈(たま)ると喜(よろこ)ばれる物(もの)もある”と続(つづ)けています。食べ物(たべもの)に関しては少々(しょうしょう)辛口(しんこう)ですが、自然(しぜん)と歴史的建造物(れきしきてうぞう)が調和(てうわ)する奈良(なら)の風景(ふうけい)については手放(てな)しで誉(ほ)めています。

「今の奈良(なら)は昔(むかし)の都(みやこ)の一部分(いっぶぶん)に過ぎ(すぎ)ないが、名画(めいが)の残欠(ざんけつ)が美(う)しいやうに美(う)しい。」という一節(いちせつ)からは、志賀直哉(しがなおや)が奈良(なら)の風景(ふうけい)をいかに愛(あい)していたかが伝(つた)わってきます。

#### ならトピック

志賀直哉(しがなおや)は、生涯(しやうがい)で23回(じふさんじゆ)も転居(てんきょ)したそうです。1、2年(いちふたねん)で引越(ひっこ)すことも多(おほ)かったのですが、奈良(なら)には13年(じふさんねん)も住(す)んでいました。東京(とうきょう)に引越(ひっこ)した後も、旅行(りょこう)で訪(た)ねるほど奈良(なら)は志賀直哉(しがなおや)にとって格別(かくべつ)な場所(ばしょ)だったようです。



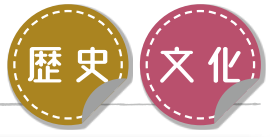
出典:国立国会図書館「近代日本人の肖像」



しがおや 志賀直哉旧居

## 孫を天皇にするため都を移す!? 敏腕政治家だった藤原不比等

# 藤原不比等 (生没年659~720) ●ふじわらのふひと



藤原不比等は、658年に中臣鎌足(後の藤原鎌足)の次男として生まれました。701年の大宝律令制定に貢献するなど、敏腕政治家として存在感を強めた不比等は、元明天皇に働きかけて都を藤原京から平城京に移します。そこには文武天皇に嫁いだ娘が産んだ孫(後の聖武天皇)を新しい都で天皇としてデビューさせたいという思惑があったと言われています。じつは聖武天皇の后である光明子も不比等の娘で、なんと自分の娘と孫を結婚させたんですね。

不比等の死後、4人の息子は藤原氏の勢力を守るため、政敵だった長屋王を策略で自害させます(長屋王の変)。その後、光明子は皇族以外から初めて皇后になりました。こうして皇族との結びつきを強めながら、藤原氏は勢力を拡大。京都に都が移ったあとも、春日大社や興福寺は有力な藤原氏の氏神・氏寺として勢力を誇りました。

**ならトピック**  
藤原不比等は、もともと「史比等」という漢字だったそうですが、『日本書紀』などでは「比べるものがない」という意味で「不比等」と表記されたそうです。古代日本の形をつくった一人と言えるでしょう。



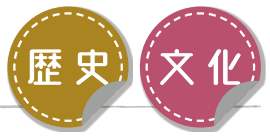
出典: 菊池容斎(武保)著『前賢故実』巻之2, 東陽堂, 明36.3.  
国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/778226>  
(参照 2023-02-27)

- 春日大社 P7、興福寺 P7、
- ひがしむき商店街 P8、法華寺 P8、平城宮跡 P9

## 武士の時代にウケた奈良仏師の作風とは？

# 運慶 (生没年 不詳~1224)・快慶 (生没年 不詳)

●うんけい・かいけい



運慶・快慶は鎌倉時代を代表する仏像作りの職人です。血縁関係はありませんが、同じ奈良仏師の派閥に所属する兄弟弟子で、立場は運慶が上だったと言われています。

1180年の平家による南都焼き討ちで焼け落ちた東大寺・興福寺の仏像再興を請け負ったことで、京の仏師より低く見られていた奈良仏師に注目が集まります。貴族から武士の時代が変わる中で、今にも動き出しそうなリアル感ある作風がフィットしたと言えるでしょう。

運慶・快慶の代表作として有名な東大寺の南大門金剛力士像は、運慶がディレクター役を務め、快慶をはじめとする20人ほどの仏師がわずか69日で制作しました。仏師として優れていた運慶ですが、組織的に人を束ね、多くの作品を残した名ディレクターであったともいえます。躍動感ある力強い作風の運慶、絵画的で繊細な作風の快慶と、二人の作風の違いにも注目してみましょう。



運慶・快慶らが制作した東大寺の南大門金剛力士像 ©飛鳥園

**ならトピック**  
南大門金剛力士像が69日で完成したのは、「寄木造(よせぎづくり)」という方法で作られたから。1本の木からつくるのではなく、複数の材木を束ねる寄木造だったので作業分担が可能だったのです。

- 東大寺 P6、興福寺 P7



## 優秀すぎて帰国できなかった遣唐使

## 阿倍仲麻呂 (生没年698~770)

●あべのなかまろ



阿倍仲麻呂は717年に19歳で唐に渡った遣唐使です。日本人ながら難関の唐の官僚試験に合格。優秀だったため、皇帝から日本への帰国がなかなか許されませんでした。36年ぶりに一時帰国を許されましたが、船が難破して現在のベトナムへ漂着。その後、唐に戻り、一生を終えました。故郷を偲ぶ歌「天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山にいでし月かも」が有名です。



出典:菊池容齋(武保)著  
『前賢故実』巻之2,東陽堂,明36.3.  
国立国会図書館デジタルコレクション  
<https://dl.ndl.go.jp/pid/778226>  
(参照 2023-02-27)

みかさやま  
御蓋山

## 民衆に大人気だった仏教界の異端児

## 行基 (生没年668~749)

●ぎょうき



後の元興寺である法興寺(飛鳥寺)で修行していた行基は、やがて街に出て布教するようになります。当時、僧侶は寺にこもって祈るのが一般的だったため、異端児として朝廷から弾圧されます。しかし、民衆には大人気だったため、その人気を利用して、聖武天皇は大仏造立を依頼。行基の作った社会事業集団が、大仏造立の大きな役割を担いました。



東大寺 P6、法興寺(飛鳥寺)、元興寺

ひがしむき商店街 P8

## 都が京都に移ったことは奈良にとってラッキー!?

## 桓武天皇 (生没年737~806)

●かんむてんのう



桓武天皇が即位した頃は、公地は荒れ、役人は腐敗して政治が乱れていました。そこで政治改革のため長岡京(現在の京都府長岡京市)、その後、平安京に遷都。奈良仏教による政治干渉を切り離し、空海や最澄の説く新仏教を保護しました。遷都で日本の中心は京都に移りましたが、そのため奈良は大きな戦に巻き込まれず、文化遺産を保存・継承してこれたともいえます。



出典:ColBase  
(<https://colbase.nich.go.jp>)

へいしやうきやうせき  
平城宮跡

P9

## 奈良の古代建築の保存継承を支えた鬼

## 西岡常一 (生没年1908~1995)

●にしおかつねかず



祖父、父と3代続く宮大工の棟梁で、法隆寺の解体大修理、薬師寺の金堂や西塔の再建に一生をささげました。古代の道具の復元など、飛鳥時代から受け継がれる寺院建築技術を後世に伝えた功績で、宮大工として初の文化功労者に選出。強烈な職人氣質でときに研究者と激しくバトルする姿に、周囲からは畏敬の念を込めて“鬼”と呼ばれました。



写真提供:西岡太郎

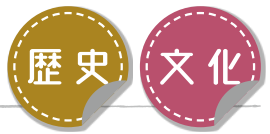


法隆寺、薬師寺

P10

## 太く短く生き抜いた俳人が魅せられた“奈良と柿”

### 正岡子規 (生没年1867~1902) ●まさおかしき

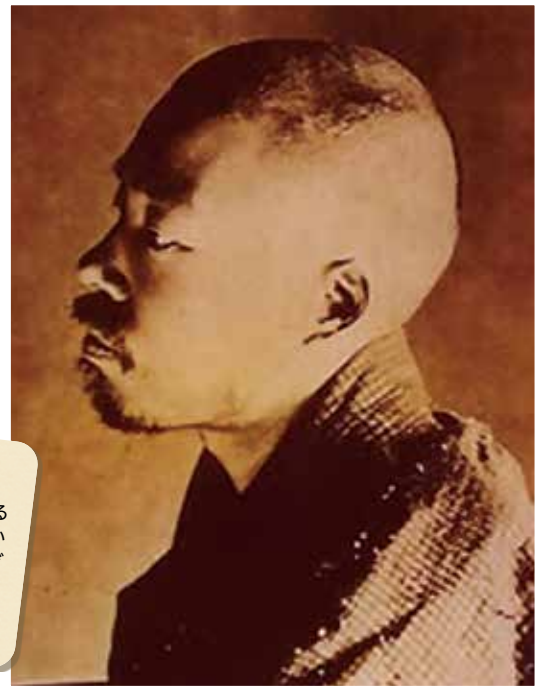


「柿くへば 鐘が鳴るなり 法隆寺」は、明治を代表する俳人・正岡子規の作品の中でも特に有名な句です。結核をわずらいながら日清戦争の従軍記者として中国に渡った子規ですが、帰国の船で咯血し、故郷・松山で静養します。その後、東京に戻る途中に立ち寄った奈良で、この句を詠みました。

当時、子規は東大寺近くの屈指の老舗旅館「對山樓」に4日間滞在。そこでも柿にまつわる「秋暮るゝ 奈良の旅籠や 柿の味」という句を詠んでいます。この對山樓の跡地に造られた庭園が「子規の庭」です。子規の旅行時にもあったと思われる柿の古木を中心に、子規が愛して詠んだ草花を植え、東大寺大仏殿と若草山を借景としています。

この奈良旅行の後、病状が悪化。子規にとって奈良は最後の旅行地になりました。その後、寝たきりになっても精神的に創作活動を続け、35歳という短い生涯を駆け抜けました。

**ならトピック**  
子規は無類の柿好きで、柿にまつわる句は数知れません。病床にもお見舞いの柿がたくさん届きましたが、食べすぎて腹を壊し、医師から禁止令が出されることに。そのため、柿を食べられない恨みを詠んだ句も数多く残されています。



写真提供: 子規の庭 友の会事務局



子規の庭(「日本料理 天平倶楽部」内)

### “世界のクロサワ”が選んだ『羅生門』のロケ地

#### 黒澤 明 (生没年1910~1998) ●くろさわあきら



日本を代表する映画監督・黒澤明。出世作『羅生門』は、第12回ヴェネツィア国際映画祭で金獅子賞、第24回アカデミー賞で名誉賞(外国語映画賞)を受賞しました。『羅生門』は平安京を舞台とした作品ですが、じつはロケの一部は春日山原始林で実施。巨樹が生い茂る森の神秘的な映像が、効果的に取り入れられています。



©黒澤プロダクション



春日山原始林 P10

### 奈良の高僧として生きるはずだった将軍

#### 足利義昭 (生没年1537~1597) ●あしかがよしあき



室町幕府最後の将軍・足利義昭は、跡目争いを避けるため幼くして出家し、興福寺で修行をしました。そのまま高僧として一生を終える予定だったのですが、兄の13代将軍・足利義輝が暗殺されたことで還俗。織田信長に後押しされて15代将軍に就任します。やがて信長と対立しますが戦いに敗れ、これが室町幕府の滅亡につながりました。



興福寺 P7





ほかにもたくさん!

## なら探究にぴったりの人

時代は違えども、奈良市ゆかりの人々はみんな個性的!  
その生涯を探究してみたら、  
お手本にしたい人が見つかるかもしれません。

人物名	概要	関連建造物	活躍した時代(生没年)
<b>天武天皇</b> ●てんむてんのう	壬申の乱に勝利し、673年に即位した天皇。皇族が主導する政治体制をかため、律令制の整備や国史の編纂(へんさん)などを行った。	薬師寺	飛鳥時代 (不詳~686年)
<b>太安万侶</b> ●おおのやすまろ	日本最古の歴史書『古事記』の編纂者。元明天皇の時代に文官として平城京に住んでいた。1979年に茶畑から墓が見つかる。	太安万侶墓	飛鳥~奈良時代 (不詳~723年)
<b>光明皇后</b> ●こうみょうこうごう	聖武天皇の后で藤原不比等の子。聖武天皇の死後、遺品を東大寺の正倉院に奉獻。貧しい民衆や孤児のための施設もつくった。	東大寺/正倉院/ 佐保山東陵/興福寺/ 新薬師寺/法華寺	奈良時代 (701~760年)
<b>中将姫</b> ●ちゅうじょうひめ	右大臣藤原豊成の娘。その生涯が文楽、謡曲、歌舞伎などの題材になっており、生きたまま西方極楽浄土へ向かったという伝説から信仰の対象になっている。	誕生寺/徳融寺/ 高林寺	奈良時代 (747~775年)
<b>菅原道真</b> ●すがわらのみちざね	学者、政治家、文人として名高かったが、藤原時平の政略で大宰府に左遷される。全国に菅原道真を祀る天満宮があり、学問の神様として親しまれている。	菅原天満宮	平安時代 (845~903年)
<b>空海/弘法大師</b> ●くわい/こうぼうたいし	真言宗の開祖。青年期は大安寺、元興寺にて学び、東大寺にて具足戒(ぐそくかい)を受ける。その後、遣唐使として唐に渡り、密教の教えを持ち帰って真言宗を開く。	東大寺/元興寺/ 大安寺	平安時代 (774~835年)
<b>在原業平</b> ●ありわらのなりひら	平安時代の貴族で和歌の名手。情熱的な恋の歌を数多く残しており、容姿端麗で女性にモテた逸話も数知れない。伊勢物語の主人公のモデルとされている。不退寺を創建。	不退寺	平安時代 (825~880年)
<b>重源</b> ●ちゅうげん	1180年の平家による南都焼き討ち後、焼け落ちた東大寺の再興を行った僧侶。運慶・快慶による金剛力士像なども、この再興時に設置された。	東大寺	平安~鎌倉時代 (1121~1206年)
<b>源義経</b> ●みなもとのおよしつね	源頼朝の異母弟で、壇ノ浦の合戦で平氏を滅ぼす。その後、頼朝と対立した際に、興福寺に潜伏。義経籠手(こて)という国宝が春日大社に所蔵されている。	春日大社/興福寺	平安~鎌倉時代 (1159~1189年)
<b>村田珠光</b> ●むらたじゅこう/しゅこう	室町時代の茶人で僧侶。侘茶の開祖と言われている。称名寺に墓がある。	称名寺	室町時代 (1422~1189年)
<b>松永久秀</b> ●まつながひさひで	多聞城を築城し、1567年に東大寺大仏殿の戦いで三好三人衆・筒井連合軍に勝利した武将。織田信長より大和国を任される。のちに信長と対立し、信貴山城で自害。	東大寺/多聞城跡	戦国時代 (1508~1577年)
<b>柳生宗厳</b> ●やぎゅうむねよし	戦国~江戸時代の武将。江戸時代に徳川家に認められた兵法「柳生新陰流」の流祖。	芳徳寺/一刀石/ 旧柳生藩家老屋敷	戦国~江戸時代 (1527~1606年)
<b>公慶</b> ●こうけい	江戸時代に東大寺の大仏・大仏殿の再建に一生を捧げた僧侶。この再建により江戸時代の奈良は観光都市として栄えた。	東大寺/五劫院	江戸時代 (1648~1705年)
<b>森鷗外</b> ●もりおうがい	軍医であり、日本の明治~大正時代を代表する文学者。帝室博物館総長時代は、正倉院の宝物開封のため、毎年秋に奈良を訪れていた。	帝室博物館(奈良国立博物館)/鷗外の門	明治~大正時代 (1862~1922年)
<b>会津八一</b> ●あいづやいち	歌人・美術史家・書家。奈良旅行の際に仏教美術に興味を惹かれ、奈良で多くの歌を残す。現在も歌碑が点在。	日吉館/唐招提寺など 市内に歌碑が複数	明治~昭和時代 (1881~1956年)
<b>入江泰吉</b> ●いりえたいきち	奈良に生まれ育ち、奈良の写真を撮り続けた写真家。志賀直哉、会津八一らとの親交もある。	入江泰吉記念奈良市写真美術館/入江泰吉旧居/市内の社寺	明治~平成 (1905~1992年)
<b>森見登美彦</b> ●もりみとみひこ	奈良市在住の作家。作品の中で西奈良を舞台にしたものも多い。	西奈良(登美ヶ丘)/ 大和文華館/梨風庵	昭和~ (1979年~)



# ✓ 旅行前に コンセプトとキーワードを決めよう

コンセプト

- 1 なら探究テーマ(6~17ページ)の中から、興味をもったことやもっと知りたいものを選んでみよう。このテーマが、奈良市での街探索のベースになることをふまえて選ぼう。テーマを選んだら、ウェビングマップでイメージを広げてみよう。ウェビングマップとは中心にテーマを記入し、そこから発想した言葉を書き込んでいく図のこと。ウェビングマップが完成したら、旅行で調べてみたいことに★印をつけてみよう。



ウェビングマップ  
作成のコツ

- きれいに作ろうとせず気になったことはどんどん書き込む
- 大きなものから小さなものへ、抽象的なものから具体的な内容に広げていくと書きやすい
- 事実だけではなく仮説も書き込んでOK。その2つが区別できるように色を変えるなどするとさらにGOOD!



- 2 自分の「なら探究テーマ」にハッシュタグ(#)をつけるとしたら何をつけるか、下のキーワードマップの中から近い言葉を選んで○で囲んでみよう。複数選んでもOK。ここにある言葉以外でも思いついた言葉があれば書き込んでみよう。

#古い #伝統的 #進歩的 #親しみ #現代的 #悲しい #気持ちが良い  
 #楽しい #難しい #縁遠い #なじみがある #おいしい #価値がある  
 #かっこいい #美しい #暗い #未来的 #大切 #つらい #保守的  
 #華やか #落ち着いた # # #

- 3 「なら探究テーマ」について事前調査をしよう。選んだハッシュタグ(#)と一致するかも確かめよう。



しかまるくん  
©奈良市観光協会

- 4 調査してわかったことや疑問に思ったことを書いておこう。また、現地で確かめたいことも書いておこう。

---



---



---



---



---



---



---



---

# 街探索

## 昔と今の地図を片手にならまちを探索しよう!

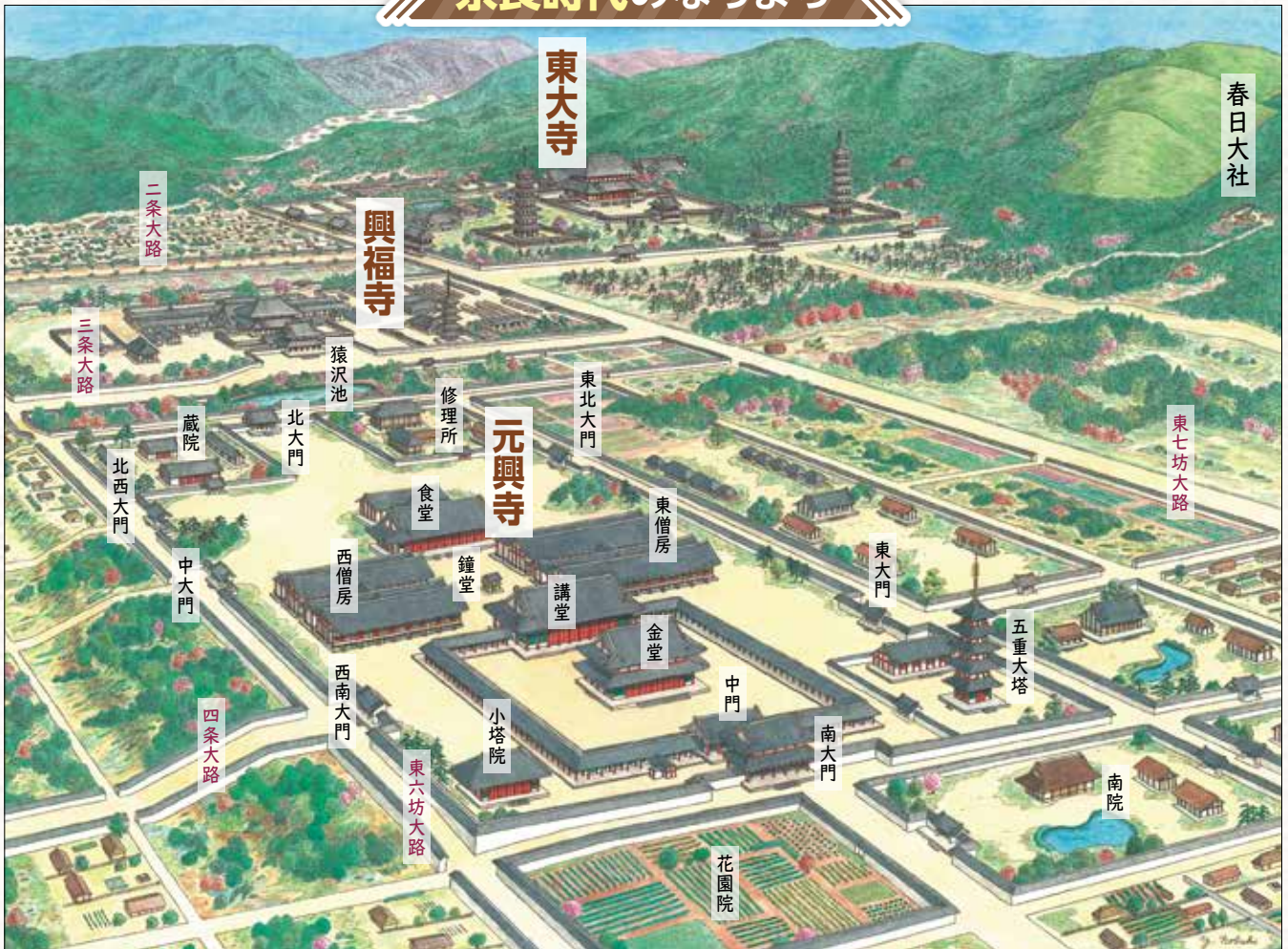
しまろくん  
©奈良市観光協会



ここからは、ならまちの奈良時代、江戸時代、現代の地図を紹介します。  
 ならまちは、時代とともに門前町、商工業の街、観光の街と変化してきた街ですが、  
 3つの時代の地図を見比べることで、そこから何が読み取れるでしょうか？  
 また、3つの時代の地図を片手にならまちを歩けば、おしゃれなカフェや雑貨店の間に  
 奈良時代から変わらないもの、江戸時代の人々の工夫など、驚きの発見があるかもしれません！

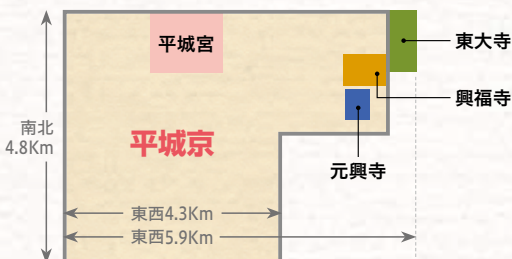
### 奈良時代のならまち

※鳥瞰図(ちょうかんず)



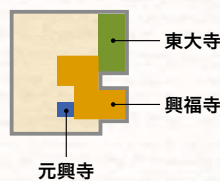
#### ◆時代による平城京・寺院変遷について ※下記はイメージです

##### ①奈良時代



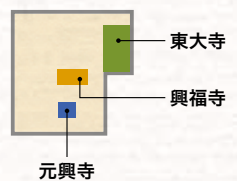
- 現在の奈良公園も平城京の一体であった
- 平城京の東側は寺院を中心としたエリアであり、東大寺(国営)、興福寺(藤原氏)、元興寺(曾我氏)ともに大きな勢力を誇っていた

##### ②江戸時代(中期)



- 都が京都へ移る際に、都市機能と共に多くの貴族・庶民が京都へ移動した
- 寺院中心のエリアでは、残った庶民や仏教関係者により都市として発展していく
- 各寺院の勢力関係に変化が現れる

##### ③現代(明治維新以降)



- 明治維新以降、神仏分離令の影響により現在とほぼ同じ大きさになる



昔と今のここをチェック!

しまろくん  
©奈良市観光協会



- ・一番面積が大きいのはどんな土地?
- ・今も残っている道はどこ?
- ・元興寺の境内だった場所に今は何がある?

ならまち周辺再生古地図



<http://bit.ly/3Z9McFx>

奈良市観光協会が作成。元興寺が全盛期を迎えていた「奈良時代」、町家が増え町人の街として栄えた「江戸時代中期」の2種があります。オンラインでも閲覧が可能で、位置情報を許可することで、古地図上で現在地を表示しながら街歩きができます。

## 江戸時代のならまち



寺社地	田畑	—— 商店
武家地	林野	○ 木戸
町人地	荒地	■ 神社・社 号 □ 祠・小堂 ☆ 寺院

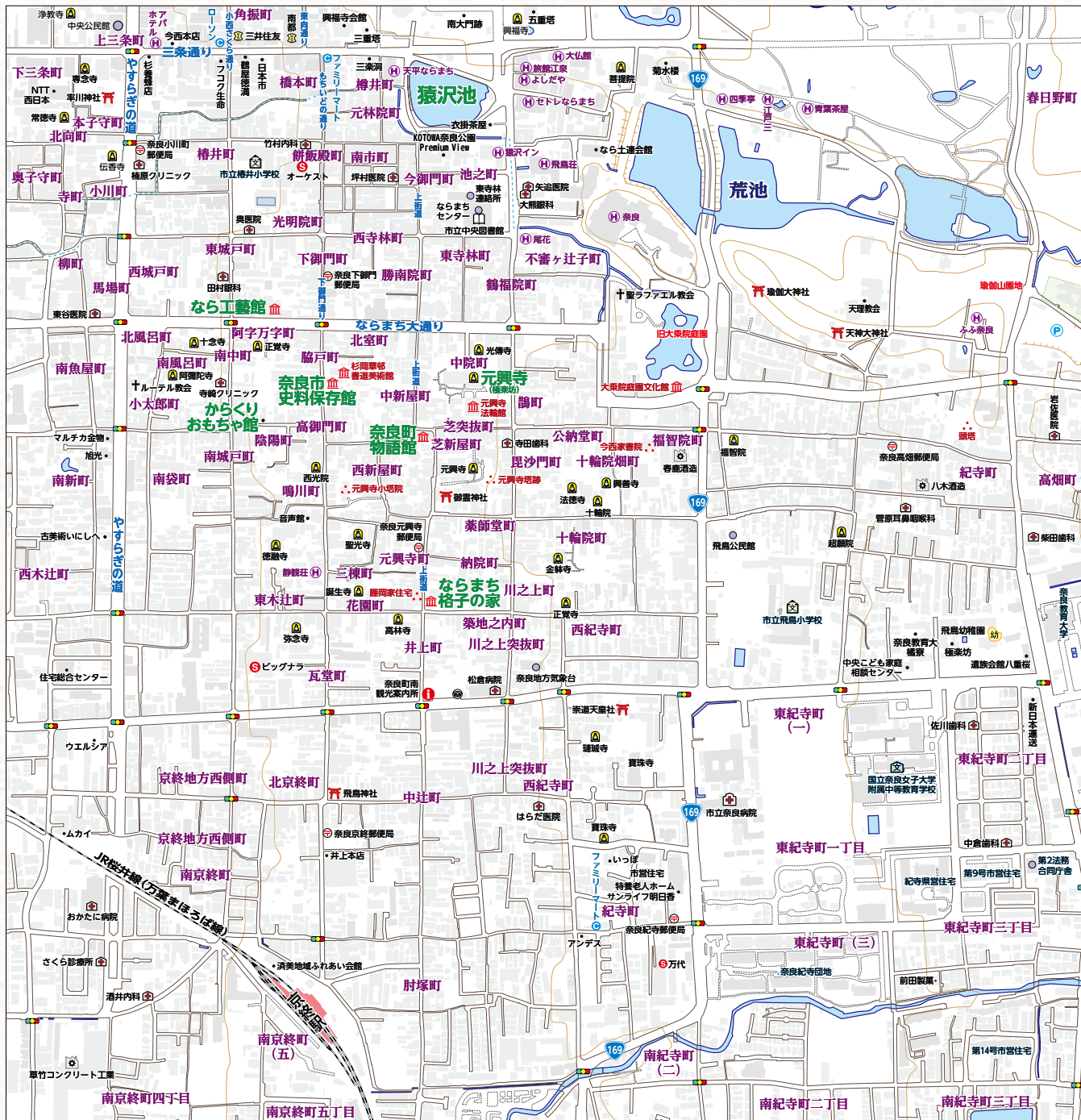
昔と今のここをチェック!

- ・奈良時代と比べて一番何が大きく変わった?
- ・お寺など今も残っている建物はああるかな?
- ・住んでいる人はどう変わっていきそうかな?





# 現代のならまち



探索のルートを決めよう!

移動	移動	移動
分	分	分
:	:	:
:	:	:
:	:	:

「奈良公園ウォークマップ」をダウンロードして自分たちのルートをイメージしてみよう!



<http://bit.ly/3YAasQb>



しかまるくん  
©奈良市観光協会

# ✓ 旅行前に地図を見比べての気づきと ならまち探索後の感想をまとめよう

旅行前に①～④の観点で古地図と地図を見比べたときの気づきを書いておこう。  
右側の欄には、ならまちの探索後にわかったことやその理由、発見したことなどを書き入れよう。

	〈 旅行前 〉 地図を見比べたときの気づき	〈 探索後 〉 左欄の内容に対して分かったこと
①共通している ところ		
②異なるところ		
③現地で 見てみたいところ		
④その他、 地図全体を見て 気づいたこと、 疑問に思ったこと		





現地で気づいたことをメモしておこう。パンフレットなどを切り抜いて貼るのもいいね！





# 奈良市での学びをふりかえろう



- 1 18ページで設定した自分の「なら探究テーマ」の★印をつけた項目について、旅行中に感じたことをまとめよう。

自分の「なら探究テーマ」

実際に旅行しての感想、印象が変わったこと、魅力と思ったこと

- 2 自分の「なら探究テーマ」をふまえて、奈良市の「これまでの1300年で保存・継承されてきたもの」「これからの1300年も持続していくべきもの」を改めて考えてみよう。  
奈良市で発見したことや感じたことを思い出して、それぞれキーワードをたくさん書いていこう。

奈良市で体感した歴史あるもの(これまでの1300年で保存継承されてきたもの)

奈良市で見聞きした、新しいもの(これからの1300年も持続していくべきもの)



3

②で書いたキーワードの中から、それぞれ特に印象的だと思ったものを、下の枠の中に書こう。そして、そのかけ合わせによって何が生まれるかを考えよう。きっと、さらなる奈良市の魅力の発見へとつながっていくはずだ。

奈良市で体感した歴史あるもの  
(これまでの1300年のもの)



奈良市で見聞きした、新しいもの  
(これからの1300年も持続していくべきもの)



これまでの1300年、これからの1300年のキーワードをかけ合わせて生まれそうなことを書いてみよう。

4

「奈良市らしい」とはどういうことだろう。上で考えた「奈良市の歴史あるもの」「奈良市の新しいもの」を足し合わせて、キャッチコピーにしてみよう。



## 自分ごととして考えてみよう

しかまるくん  
©奈良市観光協会

- 1** 奈良市を見てきたのと同じように、「歴史」「文化」「景観」の3つの切り口のうちどれか一つを選んで、自分の住む地域の持続させていきたい魅力とその課題のキーワードを挙げてみよう。自分の「なら探究テーマ」に関連しても、別のことを取り上げてもOK。もし、選択した部分以外も思いついた場合は書き込んでみよう。

	自分の住む地域の魅力や強み	自分の住む地域の課題や弱み
歴史		
文化		
景観		



- 2 ①で記入したキーワードをもとに、自分の住む地域の魅力や強みについて文章で説明してみよう。  
(26～27ページの奈良市で見えてきたことを参考にするとよいだろう)

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

- 3 ①で記入したキーワードをもとに、自分の住む地域の課題や弱みについて文章で説明してみよう。  
(26～27ページの奈良市で見えてきたことを参考にするとよいだろう)

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

- 4 1300年先に向けて自分の住む地域の魅力や強みを維持していくにはどうすればいいだろう。また、今の自分にできることは何だろう。②と③で書き出したことを参考にしながら、考えて書き出してみよう。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



しかまるくん  
©奈良市観光協会

## 奈良市のSDGsを感じよう

奈良市では「これまでの1300年を保存・継承し、これからの1300年も持続していく」ことを大切にしています。

現代において、奈良市のこの姿勢は世界中の国や地域において「SDGs（持続可能な開発目標）」の観点から重要視されています。それは日本も同じで、国、都道府県、市区町村ごとにSDGsの活動が行われています。あなたの住んでいる地域も例外ではありません。

あなたも社会の一員として、世界、日本、自分の住む地域のために、何ができるかを考えていくことが大切です。

## SDGs 5つのPを知ろう

SDGsは、17の目標および、それらを具体化した169のターゲットで構成されています。これらの目標とターゲットは、5つのPというキーワードでとらえるとより理解しやすくなります。

5つのPとは「People（人間）」「Prosperity（豊かさ）」「Planet（地球）」「Peace（平和）」「Partnership（パートナーシップ）」です。それぞれの項目に17の目標が関連づけられています。



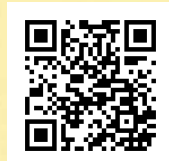
### SDGsについて

国連広報センター



[https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)

日本ユニセフ協会  
SDGs CLUB



<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/#>

『SDGsを広めたい・教えたい方のための「虎の巻」』  
(国際連合広報センター)より作成

●SDGs「5つのP」で分けてみよう

自分の「なら探究テーマ」を、SDGsの5つのPで整理してみよう。

奈良市での学びの中で、SDGsにつながると思った活動や考え方を見つけ、それぞれ5つのPに振り分けよう。  
当てはまるものがないPは空欄でもOK。

	17の目標	自分の「なら探究テーマ」に関連していること
<b>People</b> (人間)		
<b>Prosperity</b> (豊かさ)		
<b>Planet</b> (地球)		
<b>Peace</b> (平和)		
<b>Partnership</b> (パートナーシップ)		

# 奈良×探究

～1300年の歴史を感じながら、自分たちの未来を描いていこう～

2023年3月発行

発行・問い合わせ先：公益社団法人 奈良市観光協会

〒630-8122

奈良市三条本町8-1シルキア奈良2階

TEL.0742-30-0230 / FAX.0742-30-0231

平日9:00～17:45(土日祝休み)

制作協力：田村 学(國學院大學人間開発学部初等教育学科教授)

株式会社トモノカイ

本書の全部または一部を無断で複写・複製することは、著作権法に基づき禁じられています。  
本書の解説書・指導書・ワークブック並びにこれに類するものの無断発行を禁じます。



奈良市観光協会  
Nara City Tourism Association



名前

年

組

番